

RINREI

カーペットスリーパー

RCS-400

取扱説明書

各部の名称

6

運転準備

8

運転

13

運転後の整備

18

バッテリーの充電と保守

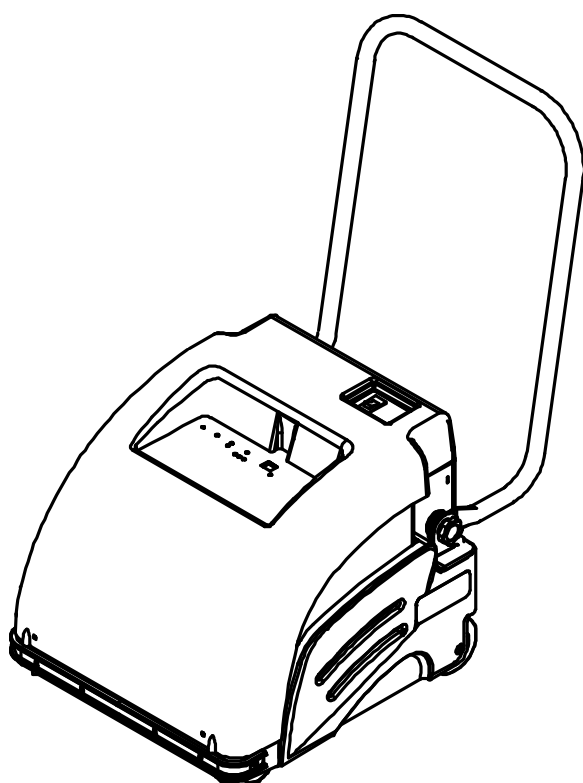
20

保守

27

トラブルシューティング

34



このたびはカーペットスリーパーRCS-400をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも使えるように大切に保管してください。

重 要

- ◎『安全にお使いいただくために』（P.4～5）をかならずお読みいただき、正しくお使いください。
- ◎運転・保守に関する指示を守り、日常点検を励行してください。
- ◎設置および点検について法令並びに条例による規定がある場合はその規定に従ってください。
- ◎本書は標準仕様の製品を対象とした取扱説明書です。お客様のご指示により特注仕様に変更した場合は、デザイン・操作方法が異なる場合があります。

目次

はじめに	2
1. 安全にお使いいただくために	4
2. 各部の名称	6
外観	6
コントロールパネル	7
3. 運転準備	8
ハンドルの調整	8
本体下部の点検と保守方法	9
運転前の点検	11
4. 運転	13
運転時の注意事項	14
運転方法	15
ブラシモード設定ランプが点滅したときは	15
点検ランプが点滅したときは	16
放電状態の目安について	17
フィルターの自動払い落としについて	17
5. 運転後の整備	18
ダストバケットのゴミ排出方法	18
本体の清掃について	19
保管について	19
6. バッテリーの充電と保守	20
充電方法	22
均等充電	24
バッテリー液について	24
保管時の充電について	24
バッテリーの交換	25
7. 保守	27
ブラシの点検と交換	27
スカートゴムの交換	29
フィルターの払い落とし	30
フィルターの点検と交換	31
電気回路保護装置のリセット	33
8. トラブルシューティング	34
9. 定期点検表	34
10. 部品表	35
11. 仕様表	35
12. 外観図	36
13. アフターサービスと保証	37
14. 製品の廃棄について	37

はじめに

指定作業

本製品は、回転するブラシで、カーペット表面のゴミやホコリをかき出しながら吸引する機械です。

次の作業にご使用ください。指定作業以外の用途には使用できません。

- タイルカーペットを対象とした専用機。
- タイルカーペットに絡みついたゴミやホコリの捕集作業。

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本製品は改良のため、仕様、外形、記載事項が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート及びアフターサービス等をおこなっておりませんので、あらかじめご了承ください。
- 本製品は標準で充電器を内蔵しています。

定期点検実施のお願い

安全のため、定期点検表にもとづく作業前点検と定期点検を確実に実施してください。

弊社での定期点検(有償)も承っておりますので、弊社支店・営業所にお問い合わせください。

※本製品の定期点検は、製品性能維持および部品劣化等を原因とする事故や故障等を防止するため実施してください。

本書に関するお願い

- 本説明書を紛失または汚損した場合は、速やかに弊社支店・営業所からご購入ください。
- 本製品を譲渡したり移動したりする場合は、必ず本説明書を添付してください。
- 本製品および取扱説明書にご不明な点がございましたら、弊社支店・営業所にお問い合わせください。

注意・警告ラベルに関するお願い

注意・警告ラベルがはがれそうになったときは、最寄りの弊社支店・営業所に連絡して新しいものと取り替えてください。

免責事項

下記の使用による事故、故障、物的損害等は責任を負いかねますのでご了承ください。

- ・ 本書に記載された内容と異なる不適切な使用条件、操作方法および用途に起因する場合。
- ・ 本書に記載された保守・定期点検・消耗品交換を実施しなかったことに起因する場合。
- ・ 弊社および弊社が認める第三者以外による修理・改造に起因する場合。
- ・ 火災・地震・水害などの天災や不可抗力に起因する場合。
- ・ 弊社が製造時に科学的および技術的に予見できなかったことに起因する場合。
- ・ 外部的理由に起因する場合。
- ・ その他、弊社の責任に起因しない場合。
- ・ 第三者からの譲渡など中古製品を使用する場合。

1. 安全にお使いいただくために

本書に記載した注意事項は次のように危険の程度や内容に応じて使い分けております。製品をお使いになる前に必ずお読みください。

危険

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示します。

警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- ・重傷とは、失明、けが、やけど（高温、低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が出るものおよび、治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
- ・傷害とは治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指します。
- ・物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

絵表示の説明 具体的な内容は記号の中に絵で示します。



警告や注意を示します。



禁止の行為を示します。



必ずおこなうべき事で、強制する行為を示します。

危険



爆発注意

引火性、爆発性、腐食性物質の霧・煙（ヒューム）・ガスが滞留しているところや、これらの付近で使用しないこと。

引火、爆発のおそれがあります。



爆発注意

バッテリーから引火性の水素ガスが発生するため、

- ・スパークさせたり、火気を近づけないこと。
 - ・充電は、風通しのよい場所でおこなうこと。
 - ・バッテリーを火中に投入したり、加熱しないこと。
 - ・バッテリーを分解したり、改造しないこと。
- 守らない場合、引火、爆発のおそれがあります。



爆発注意

引火性、爆発性、可燃性物質や有毒な物質を吸引しないこと。

引火、爆発、事故のおそれがあります。



爆発注意

法令で定められた危険場所では使用しないこと。

守らない場合、引火、爆発のおそれがあります。

警告



注意

安全ストッパーをはずさないこと。

守らない場合、けがのおそれがあります。



火気禁止

火種や灰を吸引しないこと。

火災のおそれがあります。



付着禁止

バッテリーの電解液は希硫酸です。目・皮膚・衣服に付けないこと。

やけどや失明の原因となります。





接触禁止


回転中のブラシには、絶対に触れないこと。


けがのおそれがあります。


警告


 製品に表示した電源電圧以外の電圧で使用しないこと。また、タコ足配線をしないこと。
定格電圧外禁止 火災、感電のおそれがあります。


 充電コードを傷つけたり、破損しないこと。また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災、感電のおそれがあります。
禁止


 傷ついた充電コード・電源プラグ・ゆるんだコンセントは使わないこと。
火災、感電のおそれがあります。
禁止


 静電気によるスパークを防ぐため
・バッテリーの表面を乾いた布や化繊布で清掃しないこと。
・バッテリーをはたき掛けしないこと。
・ビニール製品をかぶせないこと。
守らない場合、引火、爆発のおそれがあります。
禁止


 取扱説明書や警告ラベルの内容を理解すること。子供は絶対に運転しないこと。
思わぬ事故のおそれがあります。
説明理解

 充電コードの電源プラグは濡れた手で抜き差ししないこと。
感電のおそれがあります。
濡れた手禁止


 充電コードは純正品以外は使わないこと。
発熱、火災のおそれがあります。
禁止


 充電コードを束ねた状態で充電しないこと。
巻付き箇所が加熱して、火災のおそれがあります。
禁止


 この機器を改造しないこと。
事故、火災、感電のおそれがあります。
分解禁止


 バッテリー液（希硫酸）が目に入ったり、身体に付いた場合は以下の処置をすること。
・目、皮膚、衣服、物に付いたときは、すぐに多量の水で洗い流す。
・目に入った場合は医師の治療を受ける。
守らない場合はやけどや失明をすることがあります。
行動指示


注意


 点検やフィルター及び部品の交換の際は、保護具（手袋・保護メガネ・マスク等）を使用すること。
けがのおそれがあります。
注意


 回転物注意
点検や修理でカバーを開けるときは、必ず運転を停止すること。
けがのおそれがあります。
運転禁止


 タイルカーペット以外の床面や凹凸の激しい床で使用しないこと。
思わぬ事故のおそれがあります。
禁止


 運転中に異音、発煙、異常振動、過熱、異臭が発生した場合は、ただちに電源を切ること。
そのまま使用すると故障、感電、火災のおそれがあります。
電源を切る


 点検、メンテナンスをするときは、必ず電源を切ること。
感電のおそれがあります。
電源を切る

 電気部品やバッテリーには、水をかけないこと。また湿度が極端に高い場所、雨・雪などの水分がかかる場所では使用しないこと。
感電のおそれがあります。
水濡れ禁止

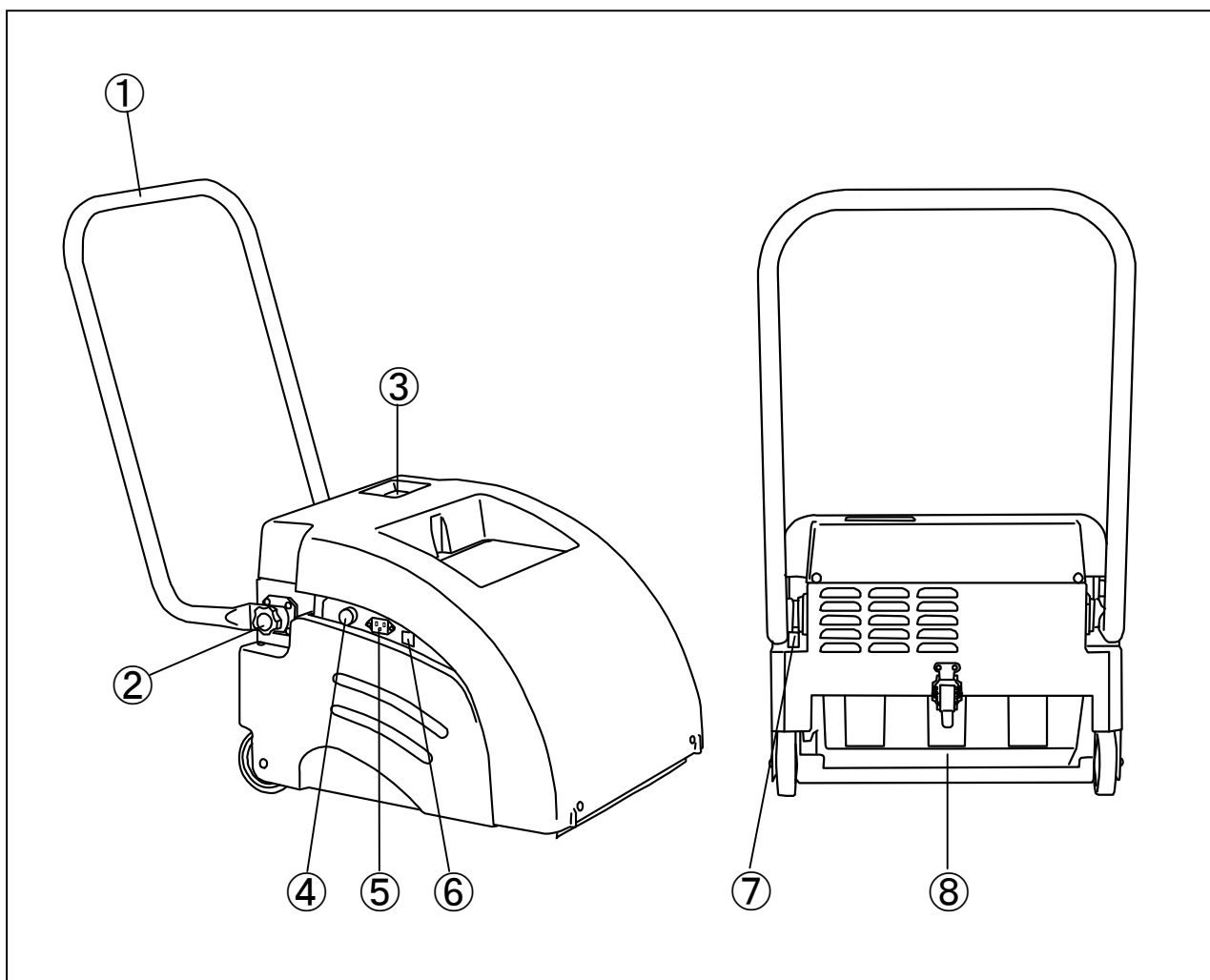
 充電コードの脱着は、充電を終了してからおこなうこと。
故障や感電のおそれがあります。
禁止

 充電は、埃や煙（ヒューム）の少ない雰囲気でおこなうこと。
故障の原因となります。
行動指示

 平たんな場所に停車、保管すること。
思わぬ事故のおそれがあります。
停車・保管する

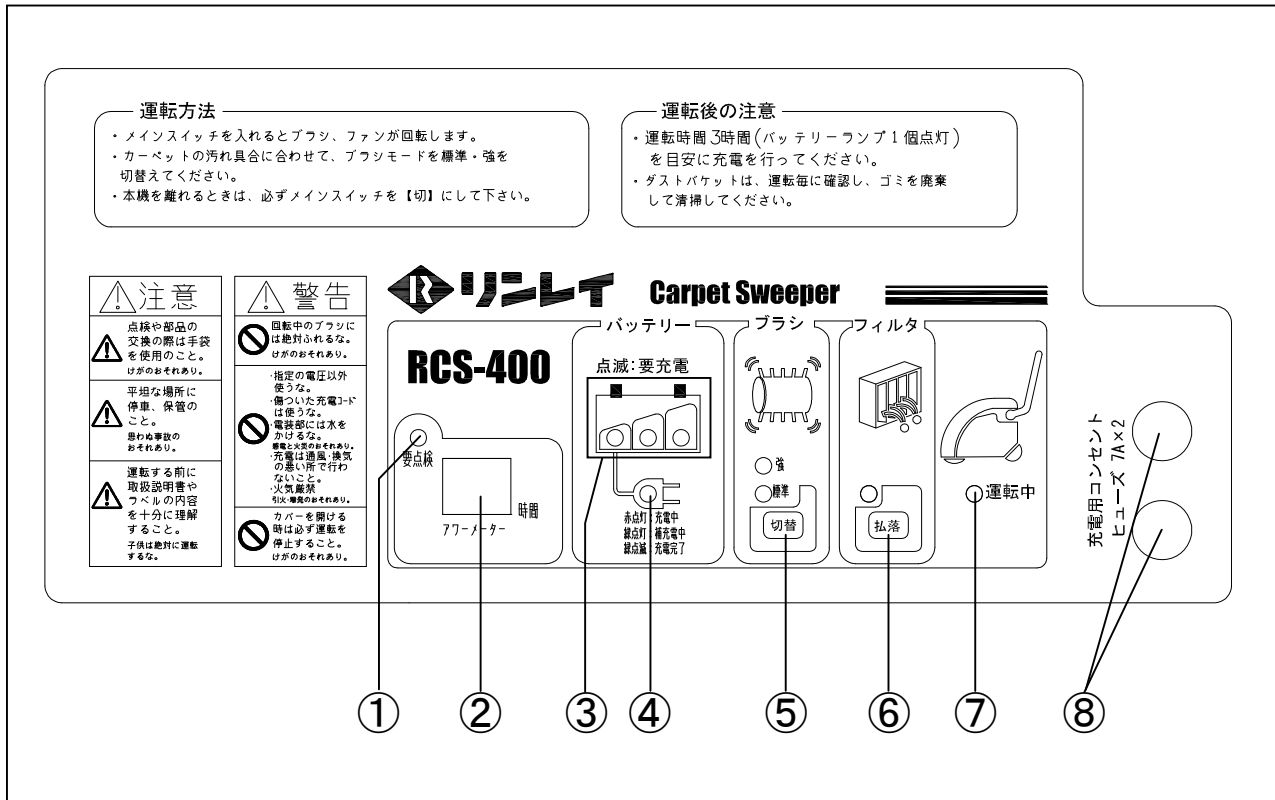
 充電コードの電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持っておこなうこと。
充電コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜く

2. 各部の名称 (外観)



No.	名称	はたらき
①	ハンドル	機体のかじをとります。
②	ハンドルノブ	ハンドルの高さを調節します。
③	メインスイッチ	電源の入/切を切り換えます。
④	バッテリー用ヒューズ (30A)	バッテリーの短絡による焼損からバッテリーを保護します。ヒューズが切れた場合は、指定されたヒューズに交換してください。
⑤	充電口	充電用の充電コードを差し込みます。 差し込んだ充電コードのプラグはコンセントに差し込み、充電を開始します。
⑥	ブラシモーター用 プロテクター	ブラシモーターが過負荷状態になると、モーター保護のため電源を遮断する安全装置です。過負荷の原因を取り除いてからボタンを押すと復帰します。
⑦	安全ストッパー	ハンドルの高さ調整時に、ハンドルの自重落下による指の挟みこみを防止する安全部品です。安全ストッパーは絶対に取りはずさないでください。
⑧	ダストバケット	ブラシで、はたき上げたゴミは、ここに溜まります。

各部の名称 (コントロールパネル)



No.	名称	はたらき
①	点検ランプ	本機に異常が発生するとランプで表示します。点検ランプが点滅したら点検メッセージを確認してください。
②	アワーメーター	運転時間を表示します。メインスイッチを「入」にすると、アワーメーターが起動します。メーターに表示する作業時間をもとに保守・点検をおこなってください。 本機に異常が発生すると点検ランプが点灯すると同時に、点検メッセージを表示します。(16ページ参照)
③	バッテリーランプ	バッテリーの残容量をランプで表示します。 バッテリーの残容量が無くなると、バッテリーランプが全て点滅して運転を自動停止します。このときは、速やかにバッテリーを充電してください。
④	バッテリー充電ランプ	バッテリーの充電状況を表示します。
⑤	ブラシ切替スイッチ	ブラシ接地圧を2段階に設定できます。日常の清掃は『標準』でご使用ください。
⑥	フィルター払落スイッチ	フィルターに付着した粉塵の払い落としをおこないます。20分以上の運転で自動払い落としをしますが、必要に応じてスイッチを押してください。
⑦	運転ランプ	運転状態をランプで表示します。
⑧	充電器用ヒューズ (7A×2)	充電器を過電流から保護します。ヒューズが切れた場合は、充電コードをはずして、キースイッチを『切』にしてから、指定されたヒューズに交換してください。(カバーの内側にあります。)

3. 運転準備

運転準備をする前に、以下の警告をお読みいただき理解してください。

警告



注意

- ・安全ストッパーをはずさないこと。
守らない場合、けがのおそれがあります。

RCS-400の構成品をご確認ください。

RCS-400本体	1台	取扱説明書	1冊
充電コード	1本	予備ヒューズ (7A×2本)	1式

ハンドルの調整

作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。

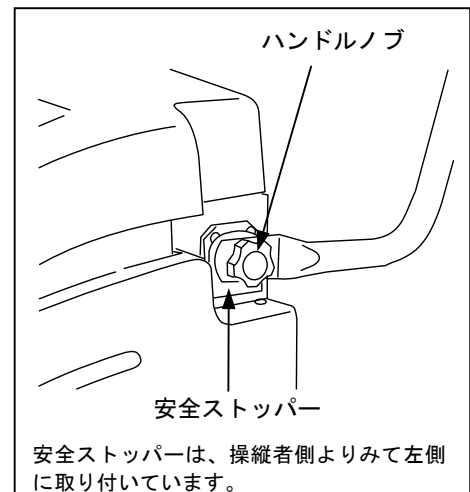
1. ハンドルの高さを調整する

ハンドル取付部に、安全ストッパーが取り付けられていることを確認した後に、左右にあるハンドルノブをゆるめて、ハンドルの高さを調整します。ハンドルノブは左右同時に緩めず、必ず片手でハンドルを支えながら、ハンドルノブを片側ずつ緩めてください。

注意：ハンドルノブを左右同時に緩めると、ハンドルが自重で落下する原因となります。

2. ハンドルを固定する

操作しやすいハンドル位置が決ったら、ハンドルノブを締めて固定します。

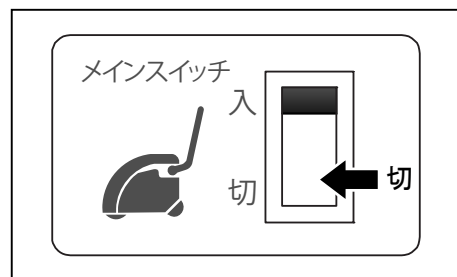


本機下部の点検と保守方法

本機下部の点検や保守をおこなう場合は、次のいずれかの手順でおこなってください。

本機を倒立させる方法

1. メインスイッチを『切』にします。
安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認します。

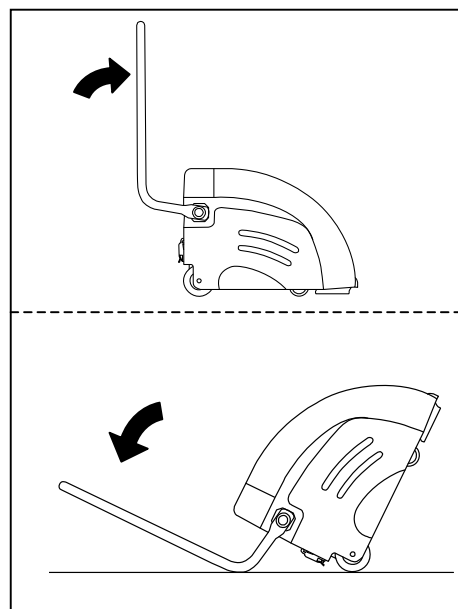


2. 本機を倒立させる
ハンドルを垂直の位置になるように調整してから、ハンドルをゆっくり押し下げてください。本体前部が持ち上がり、本機が倒立した状態で保持できます。
(『ハンドルの調整』8ページ参照)

注意：

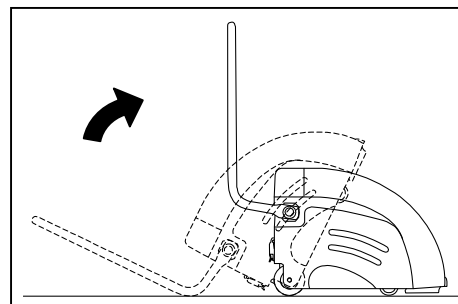
- ・ハンドルノブは左右同時に緩めず、必ず片手でハンドルを支えながら、片側ずつ緩めてください。ハンドルノブを左右同時に緩めると、ハンドルが自重で落下する原因となります。
- ・ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しアワーメーターにメッセージ「SLOP」を表示します。
メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。



3. 作業後に本体を水平にする
ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。(『ハンドルの調整』8ページ参照)

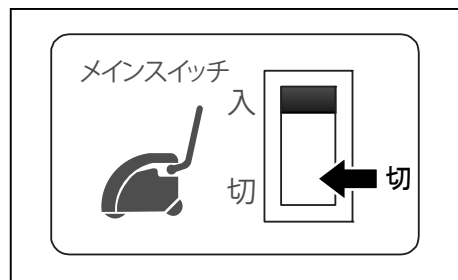
注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。



本機を横転させる方法

1. メインスイッチを『切』にします。

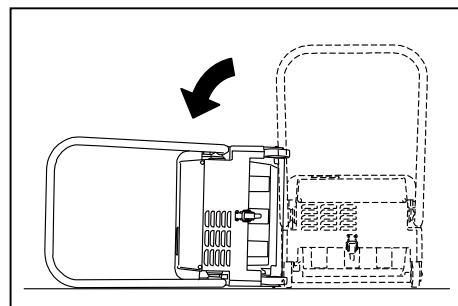
安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認します。



2. 本機を横転させる

本機をゆっくりと横転させます。

お願い：床面と本機を保護するために、クッション材を敷いてください。



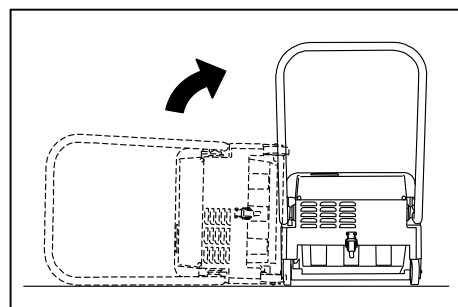
補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しアワーメーターにメッセージ「S L O P」を表示します。

メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。

3. 作業後に本体を水平にする

ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。

注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。



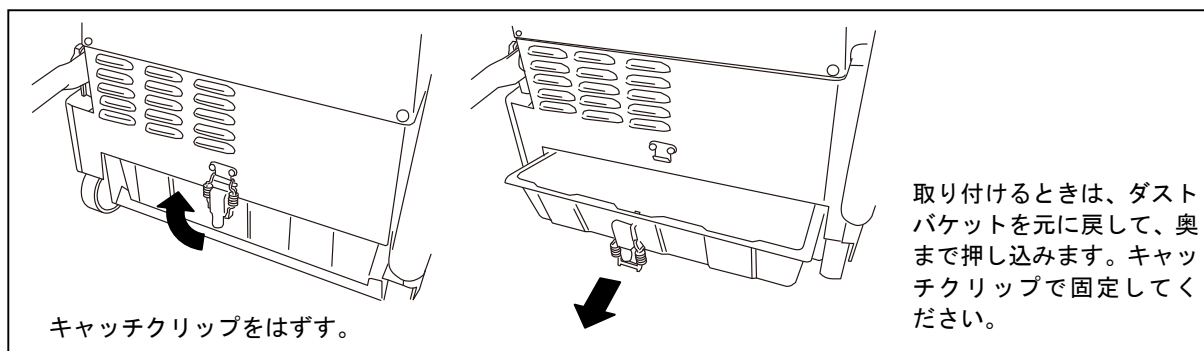
運転前の点検

⚠️お願い

- 安全のため必ず手袋を着用してください。
- 安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認してください。

ダストバケットの確認

ダストバケットにゴミが堆積していないか確認します。ゴミが堆積している場合は、廃棄してください。

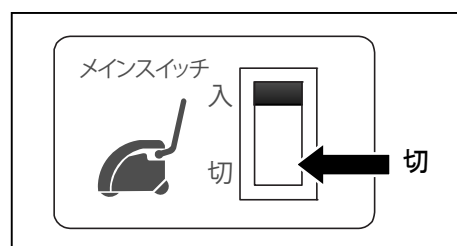


ブラシ・スカートゴムの確認

本体下部からの点検や部品交換の際は、本機を平たんな場所に移動してください。
ブラシに汚れや異物が付着していないか、スカートゴムが磨耗・破損していないか確認します。

1. メインスイッチを切る

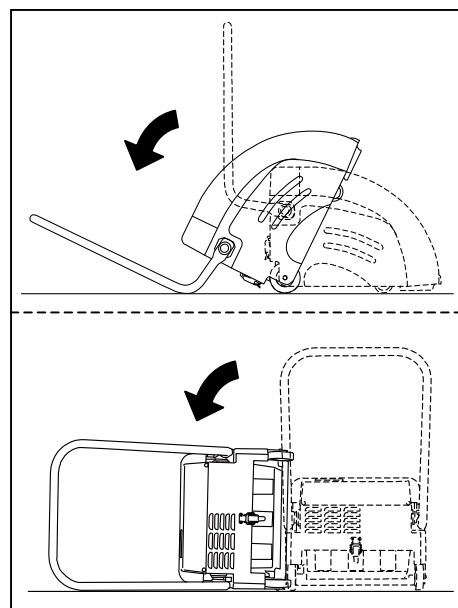
安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認します。



2. 本機を倒立または横転させる

『本機下部の点検と保守方法』9～10ページに従って、本機を倒立または横転します。

補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しパワーメーターにメッセージ「SLOP」を表示します。
メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。



3. ブラシ・スカートゴムを確認する

ブラシの確認

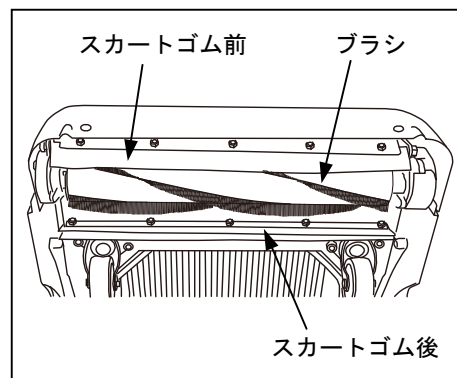
ブラシに汚れや異物が付着していないか、また変形していないかを確認します。汚れや異物が付着しているときは、取り除いてください。

また、磨耗や変形、損傷が著しいときは、ブラシを交換してください。（『ブラシの点検と交換』27ページ参照）

スカートゴムの確認

スカートゴムに異物が付着していないかを確認します。異物が付着しているときは、取り除いてください。

また、磨耗や損傷しているときは、スカートゴムを交換してください。（『スカートゴムの交換』29ページ参照）

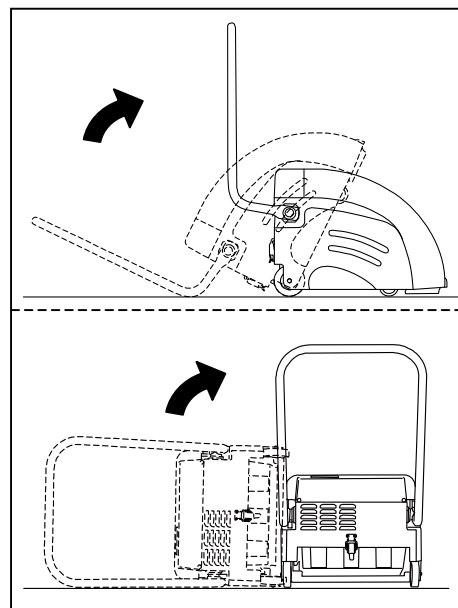


4. 本体を水平にする

ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。（『本機下部の点検と保守方法』9～10ページ参照）

作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。（『ハンドルの調整』8ページ参照）

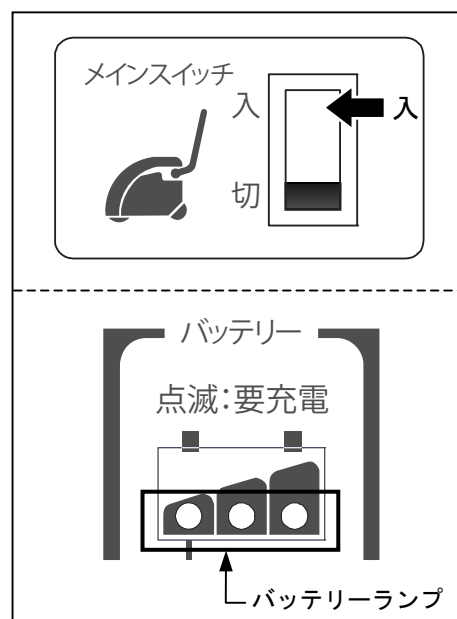
注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。



充電状態の確認

1. メインスイッチを『入』にする。

バッテリーランプが3つ点灯していることを確認します。放電しているときは充電してください。（『充電方法』22～23ページ参照）



4. 運転

運転操作をする前に、以下の危険・警告・注意をお読みいただき理解してください。

⚠危険



爆発注意

- ・引火性、爆発性、腐食性物質の霧・煙（ヒューム）・ガスが滞留しているところや、これらの付近で使用しないこと。
引火、爆発のおそれがあります。



爆発注意

- ・引火性、爆発性、可燃性物質や有害な物質を吸引しないこと。
引火、爆発、事故のおそれがあります。



爆発注意

- ・法令で定められた危険場所では使用しないこと。
守らない場合、引火、爆発のおそれがあります。

⚠警告



注意

- ・安全ストッパーをはずさないこと。
守らない場合、けがのおそれがあります。



火気禁止

- ・火種や灰を吸引しないこと。
火災のおそれがあります。



接触禁止

- ・回転中のブラシには、絶対に触れないこと。
けがをするおそれがあります。



説明理解

- ・取扱説明書や警告ラベルの内容を理解すること。子供は絶対に運転しないこと。
思わぬ事故のおそれがあります。

⚠注意



水濡れ禁止

- ・電気部品やバッテリーには、水をかけないこと。また湿度が極端に高い場所、雨・雪などの水分がかかる場所では使用しないこと。
やけどのおそれがあります。



禁止

- ・タイルカーペット以外の床面や凹凸の激しい床面では使用しないこと。
思わぬ事故のおそれがあります。



停車・保管する

- ・平たんな場所に停車、保管すること。
思わぬ事故のおそれがあります。



電源を切る

- ・運転中に異音、発煙、異常振動、過熱、異臭が発生した場合は、ただちに電源を切ること。
そのまま使用すると故障、感電、火災のおそれがあります。

⚠️お願い

- ・凹凸の激しい床では絶対に使用しないでください。
故障の原因となります。
- ・湿ったり濡れたカーペットでは使用しないでください。
故障のおそれがあります。
- ・長いひもなどの上を走行しないでください。
巻き込んで故障の原因となります。
- ・タオル・マフラー・手袋・足ふきマットなどを清掃しないでください。
故障の原因となります。
- ・突起物の上を通過しないでください。
損傷の原因となります。
- ・段差を乗り越えないでください。
段差を乗り越えると故障の原因となります。
- ・たるみやうねりのあるカーペットでは使用しないでください。
たるみやうねりを大きくする原因になります。
- ・使用環境温度は、0℃～40℃の範囲内で使用してください。
許容範囲外の環境温度で使用すると故障の原因となります。

運転時の注意事項

- ・バッテリーは満充電で約4時間（※1）の連続運転が可能ですが、ご使用時間が毎日長い場合や、ブラシモードを“強”で常時ご使用された場合、また1時間以下の運転と充電を繰り返すと、バッテリー寿命が短くなることがあります。バッテリーを長くお使いいただくために、ブラシモード“標準”3時間程度でご使用されることを推奨します。
短い時間（目安：60分以下）での運転を繰り返す場合は、複数回の運転で3時間（バッテリーランプ1個点灯）使用して充電してください。
なお、累計の運転時間が3時間に満たない場合でも、1週間を目処に充電してください。

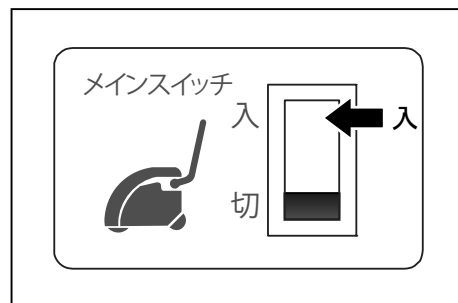
※1：新品バッテリー・標準圧・一般的なタイルカーペットでの使用における稼働時間です。使用条件によっては稼働時間が短くなります。

運転方法

メインスイッチを『入』にして操作します。メインスイッチを『入』にすると、ブラシとブロワが回転を始めます。メインスイッチを『切』にすると、ブラシとブロワの回転が停止します。

1. メインスイッチを『入』にする

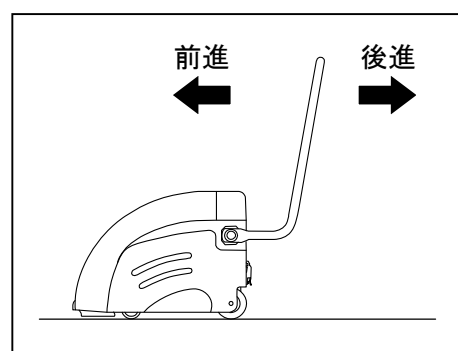
メインスイッチを「入」にすると、運転ランプが点灯しブラシとブロワが回転を始めます。



2. 運転する

ハンドルを握って、本体を前進・後進し清掃作業をします。

注意：清掃作業中に本機を同じ場所に停車させないでください。カーペットが傷つく恐れがあります。



3. 停止する

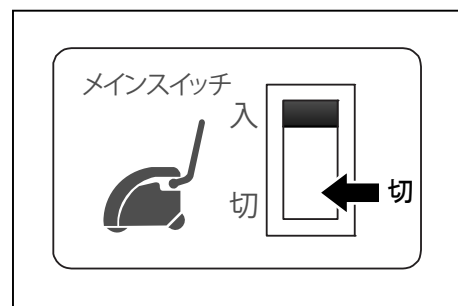
運転を停止するときは、メインスイッチを『切』にします。

4. 次回の運転に備える

次回の運転に備えて運転後の整備とバッテリーの充電をおこなってください。

(『5. 運転後の整備』18～19ページ参照)

(『6. バッテリーの充電と保守』20～26ページ参照)

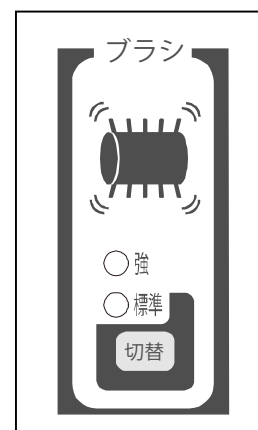


ブラシモード設定ランプが点滅したときは

ブラシの回転に異常が発生した場合に、ランプが点滅します。ブラシを確認して原因を取り除いてください。

正常時は点灯します。ブラシの回転が異常時は点滅します。下記の対応方法を実施してください。

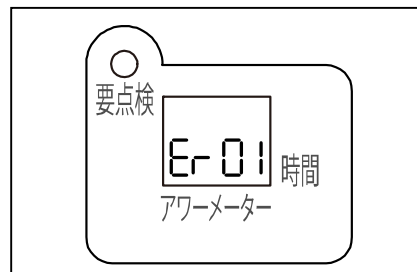
内容	対処方法
ブラシの軽負荷	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラシが正しく取り付けられているか確認してください。 ・ブラシの毛の長さを確認してください。消耗している場合は、新しいものと交換してください。 ・ブラシが床面へ下降するかを確認してください。



点検ランプが点滅したときは

本機保護のため、異常が発生した場合に運転を強制停止します。点検メッセージを確認して強制停止の原因を取り除いてください。

正常時は消灯します。本機が異常時は点滅してアワーマーターにエラー番号を表示します。下記の対応方法を実施してください。



アワーマーターにエラー番号を表示：

表示	内容	対処方法
Er01	バッテリーの異常	バッテリーの電圧が一時的に高くなっています。メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er02	機器内部の温度異常	機器内部の温度が一時的に高くなっています。メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er10	ブラシモーターの過負荷	ブラシモーターを点検し、過負荷の原因を取り除いてください。
Er11	ブラシモーターの断線	ブラシモーター、ブラシモーター配線、ヒューズを点検して断線の原因を取り除いてください。ブラシモーターが回転している場合は、ブラシを点検してください。
Er13	ブラシモーター回路の異常	メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er20	ブロワモーターの過負荷	ブロワモーターを点検し、過負荷の原因を取り除いてください。
Er21	ブロワモーターの断線	ブロワモーター、ブロワモーター配線、ヒューズを点検して断線の原因を取り除いてください。
Er23	ブロワモーター回路の異常	メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er25	シェーカーの過負荷	成形フィルターを点検し、過負荷の原因を取り除いてください。
Er28	シェーカー回路の異常	メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er50	ブラシ圧調整モーターの過負荷	ブラシ圧調整部を点検し、過負荷の原因を取り除いてください。
Er53	ブラシ圧調整モーター回路の異常	メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
Er90~91	充電：バッテリーの異常	バッテリーが7V以下です。バッテリーを点検してください。
Er92	充電：バッテリーの異常	バッテリーが18V以上です。バッテリーを点検してください。
Er94	充電：機器内部の温度異常	機器内部の温度が一時的に高くなっています。メインスイッチを切り、時間（5分程度）を置いて電源を入れ直してください。
tEnp	充電：冷却ファンの停止	機器内部の温度が一時的に高くなっています。冷却ファンが動作しているか確認してください。

※エラーはメインスイッチを「切」にして再度「入」にすると解除されます。

エラーが解除されない場合は、弊社支店・営業所までご連絡ください。

放電状態の目安について

運転中にバッテリーランプの点灯数を確認することで、放電状態を把握できます。バッテリーランプが消灯して充電ランプが点灯すると、運転ができなくなりますので、速やかに充電してください。（『充電方法』22～23ページ参照）

バッテリーランプ：

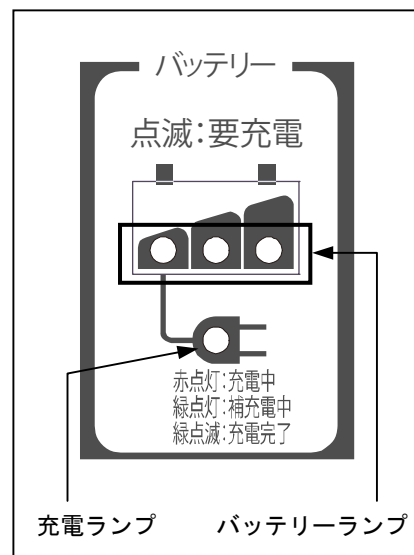
放電していくと、バッテリーランプの点灯数が少なくなります。

バッテリーランプが点滅：

バッテリーの電圧が不足すると、左側のバッテリーランプが点滅しますので、速やかに充電をおこなってください。バッテリーランプが点滅した状態でしばらく運転を続けると、保護機能（カットオフ機能）がはたらき、バッテリーランプが全て点滅して運転を強制停止します。

お願い：

充電をおこなわずに長期放置するとバッテリーの寿命に影響を及ぼしますので、運転後は充電してください。充電頻度は、『運転時の注意事項』14ページを参照してください。

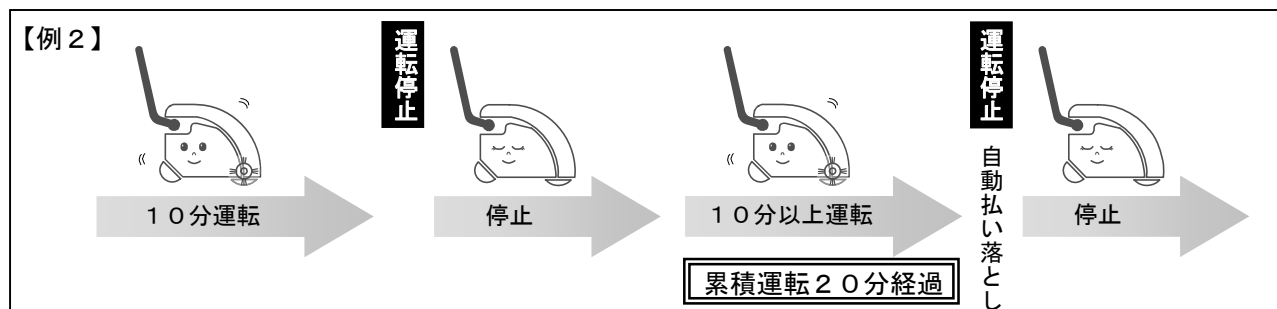
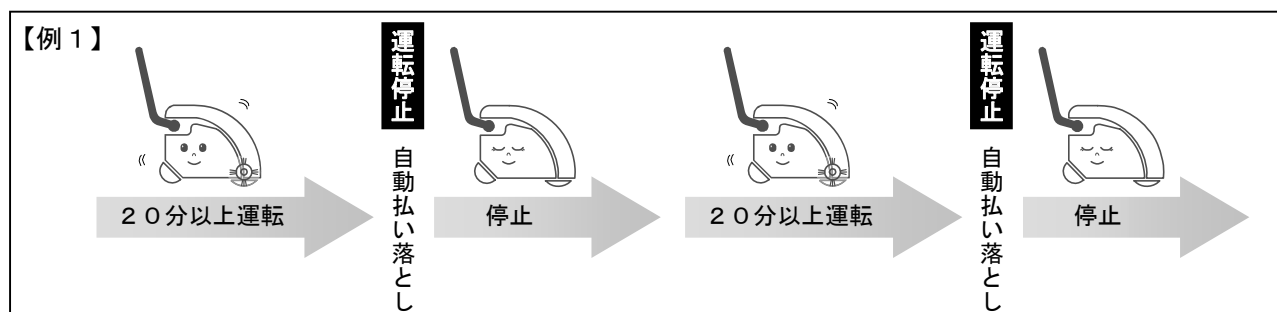


フィルターの自動払い落としについて

フィルターに付着した粉塵を自動で払い落とします。

累積運転20分経過したのち、運転停止時に5秒間の払い落としをおこないます。払い落としは運転停止から約2秒後に実施します。

自動払い落としを実施してから20分間は、フィルター磨耗防止のため、運転を停止しても自動払い落としはできません。自動払い落とし実施から累積運転20分経過したのち、運転を停止すると次の自動払い落としを実施します。



5. 運転後の整備

運転後の整備をする前に、以下の注意をお読みいただき理解してください。

⚠注意



注意

- ・点検やフィルター及び部品の交換の際は、保護具（手袋・保護メガネ・マスク等）を使用のこと。
けがのおそれがあります。



水濡れ禁止

- ・電気部品やバッテリーには、水をかけないこと。また湿度が極端に高い場所、雨・雪などの水分がかかる場所では使用しないこと。
感電のおそれがあります。



停車・保管する

- ・平たんな場所に停車、保管すること。
思わぬ事故のおそれがあります。



電源を切る

- ・点検、メンテナンスをするときは、必ず電源を切ること。
感電のおそれがあります。

ダストバケットのゴミ排出方法

⚠お願い

- ・安全のため保護具（手袋・保護メガネ・マスク等）を使用してください。
- ・安全のためメインスイッチを「切」にしてください。

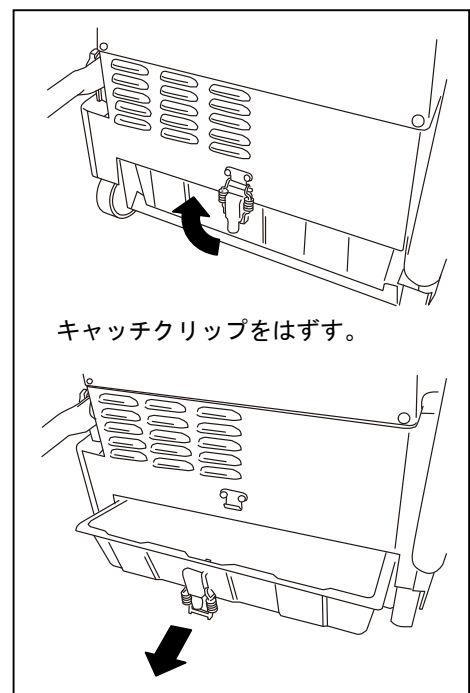
バケット内に堆積した粉塵を排出します。粉塵の飛散を防止するため、運転終了後しばらく待ってからバケットを引き出してください。

1. **ダストバケットを引き出す**
ダストバケットを固定しているキャッチクリップをはずして、バケットを引き出します。

2. **ゴミを排出する**
ダストバケットに溜まったゴミを廃棄します。

お願い：排出したゴミは、貴社規定および関連法規に従って適切に処理してください。

3. **バケットを戻す**
ダストバケットを元に戻してください。奥まで押し込み、キャッチクリップで固定します。



本体の清掃について

本体を清掃するときは、シンナーやベンジンなど揮発性溶剤を使用しないでください。変色や変形の原因となります。

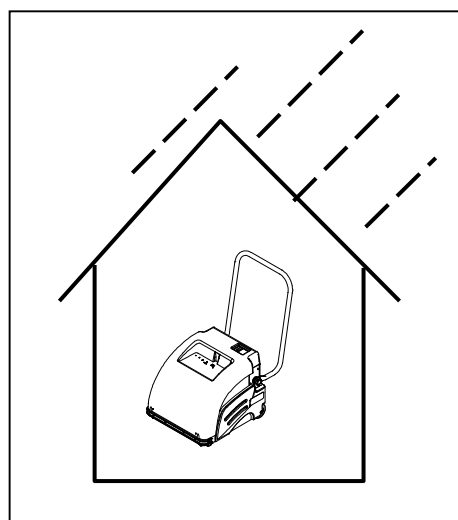
本体に水をかけないでください。故障の原因となります。

本体に付着した汚れは、中性洗剤を薄めた溶液を雑巾やウエスに染み込ませて拭いてください。

保管について

保管場所は、平たんなところで、雨露があたらない屋内に保管してください。

保管するときは、安全のためメインスイッチを「切」になっていることを確認してください。



6. バッテリーの充電と保守

バッテリーの充電・保守をする前に、以下の危険・警告・注意・お願いをお読みいただき理解してください。

⚠危険



爆発注意

- ・バッテリーから引火性の水素ガスが発生することがあるため、
 - ・スパークさせたり、火気を近づけないこと。
 - ・充電は、風通しのよい場所でおこなうこと。
 - ・バッテリーを火中に投入したり、加熱しないこと。
 - ・バッテリーを分解したり、改造しないこと。
- 守らない場合、引火、爆発の恐れがあります。

⚠警告



付着禁止

- ・バッテリーの電解液は希硫酸です。目・皮膚・衣服に付けないこと。
やけどや失明の原因となります。



定格電圧外禁止

- ・製品に表示した電源電圧以外の電圧で使用しないこと。また、タコ足配線をしてはいけないこと。
火災、感電のおそれがあります。



濡れた手禁止

- ・充電コードの電源プラグは濡れた手で抜き差ししないこと。
感電のおそれがあります。



禁止

- ・充電コードを傷つけたり、破損しないこと。
また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、
火災、感電のおそれがあります。



禁止

- ・充電コードは純正品以外は使わないこと。
発熱、火災のおそれがあります。



禁止

- ・傷ついた充電コード・電源プラグ・ゆるんだコンセントは使わないこと。
火災、感電のおそれがあります。



禁止

- ・充電コードを束ねた状態で充電しないこと。
巻付き箇所が加熱して、火災のおそれがあります。



禁止

- ・静電気によるスパークを防ぐため
 - ・バッテリーの表面を乾いた布や化繊布で清掃しないこと。
 - ・バッテリーをはたき掛けしないこと。
 - ・ビニール製品をかぶせないこと。
- 守らない場合、引火、爆発の恐れがあります。



分解禁止

- ・この機器を改造しないこと。
事故、火災、感電のおそれがあります。



行動指示

- ・バッテリー液（希硫酸）が目に入ったり、身体に付いた場合は以下の処置をすること。
 - ・目、皮膚、衣服、物に付いたときは、すぐに多量の水で洗い流す。
 - ・目に入った場合は医師の治療を受ける。
- 守らない場合はやけどや失明をすることがあります。

⚠注意



注意

- ・点検やフィルター及び部品の交換の際は、保護具（手袋・保護メガネ・マスク等）を使用のこと。
けがのおそれがあります。



水濡れ禁止

- ・電気部品やバッテリーには、水をかけないこと。また湿度が極端に高い場所、雨・雪などの水分がかかる場所では使用しないこと。
感電のおそれがあります。



運転禁止

- ・回転物注意
点検や修理でカバーを開けるときは、必ず運転を停止すること。
けがのおそれがあります。



禁止

- ・充電コードの脱着は、充電を終了してからおこなうこと。
故障や感電のおそれがあります。



行動指示

- ・充電は、埃や煙（ヒューム）の少ない雰囲気でおこなうこと。
故障の原因となります。



停車・保管する

- ・平坦な場所に停車、保管すること。
思わぬ事故のおそれがあります。



プラグを持って抜く

- ・充電コードの電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜くこと。
コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

⚠お願い

- ・充電は雨露のかからない場所でおこないます。冷却効果と安全のため、本機周辺には物を置かないでください。
- ・ご使用になるコンセントの容量が充電器の消費電流より大きいことを確認の上、充電を行ってください。
- ・電源プラグのアース線を接地してください。
- ・電源コンセントは3芯のコンセントを使用してください。また、変換プラグを使用し、2芯のコンセントを使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。
- ・バッテリーを取り扱うときは、保護メガネ・ゴム手袋等の保護具を着用してください。
- ・バッテリー交換の際は、弊社支店・営業所にご連絡のうえ、純正バッテリーをご注文ください。指定品以外のバッテリーを使用するとバッテリーの性能や寿命を低下させる原因となります。
- ・バッテリーの容量が低下し、稼働時間が減少した場合は、バッテリーを交換してください。使用を続けるとバッテリー内部部品の劣化によって、変形・破裂の原因となります。
- ・延長コードにコードリールを使用するときは、コードリールの取扱説明書に従い、電線をドラムからすべて引き出して使用してください。
- ・月に1回程度均等充電をおこなってください。
- ・周辺温度は0～40℃の範囲内でご使用ください。
- ・充電時に、バッテリーが50℃以上の温度に異常上昇した場合や、充電が終わらない現象が生じた場合は、手動にて充電を停止し、バッテリーの点検をおこなってください。

⚠️お願い

- ・ 寒冷地では、放電状態のバッテリーはバッテリー液が凍結するおそれがあるため、ご使用後は充電して保管してください。
- ・ 低温ではバッテリーから取り出せる電気量が低下し、稼動時間が短くなります。寒冷地ではなるべく暖かい場所で保管してください。
- ・ 塩害・塵埃・ガスの影響を受けやすい場所では使用しないでください。
- ・ 使用中に付近で落雷のおそれがある場合は、充電を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 使用中に天災などが発生した場合には、充電を中止し電源プラグ・バッテリーコネクタをはずし、火災などの2次災害の予防処置を施してください。
- ・ 本機を1ヶ月以上使用しない場合は、充電をおこなってから保管してください。またやむを得ず長期間保管する場合は、バッテリー性能維持のため3ヶ月に1回程度充電を行ってください。
- ・ ベンジン、シンナー、ガソリン等の有機溶剤を清掃に使用しないで下さい。有機溶剤によりバッテリーの電槽が侵され、液漏れの原因となることがあります。
- ・ 充電できない場合は、ご自分で修理なさらずに、弊社支店・営業所までご連絡ください。
- ・ バッテリー上面の排気栓は絶対に取りはずさないでください。バッテリーの性能や寿命を著しく低下させる原因となります。
- ・ 充電コードは、奥まで確実に差し込んで接続してください。接続にゆるみがあると、発熱して火災を引き起こすおそれがあります。
- ・ 充電コードは使用中の屈曲などにより、内部の素線切れなどの劣化をするため、3年程度での定期交換を推奨します。
- ・ 電波障害について

本機を他の電子機器と隣接して動作させた場合、互いに悪影響を及ぼすことがあります。特にテレビやラジオが近くにあるときは、雑音が入ることがあります。このような影響が出たときは、コンセントを別にするか、その電子機器からできるだけ遠ざけてください。

充電方法

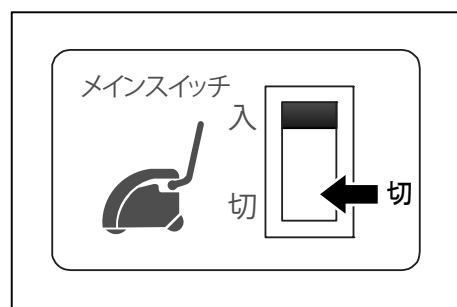
バッテリーを充電します。充電には*約11～15時間を要します。

充電をおこなわずに放置すると、バッテリーの寿命が短くなるおそれがありますので、運転後は充電してください。バッテリーを長くお使いいただくために、充電頻度は『運転時の注意事項』14ページを参照してください。

*使用条件及び環境条件により充電時間が異なります。低温環境下では15時間以上かかる場合があります。

確認：充電の前に、必ず充電コードに異常が無いか点検してください。破損や変形があるときは使用せず、新しい充電コードに交換してください。破損や変形した充電コードを使用すると、感電・異常発熱・火災のおそれがあります。

1. メインスイッチを「切」にする

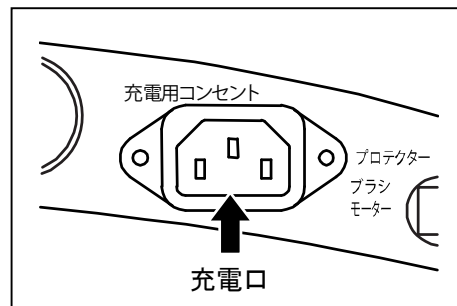


2. 充電コードを接続する

充電コードを本機充電口に接続します。
充電コードは、本機付属の純正品をお使いください。

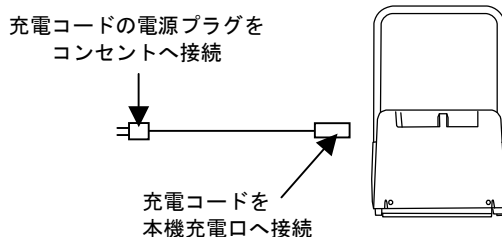
注意：

- ・ 充電コードは奥まで確実に差し込んでください。接続にゆりみがあると発熱のおそれがあります。
- ・ 充電コードは、純正品以外は使用しないでください。許容電力の低い細いコードの使用は、異常発熱し火災のおそれがあります。
- ・ 充電コードは、束ねた状態で使用しないでください。異常発熱し火災のおそれがあります。



3. 電源プラグをコンセントに差す

充電コードの電源プラグを交流100Vのコンセントに差し込みます。

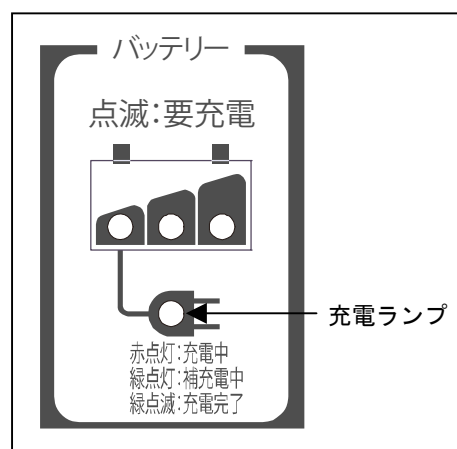


注意：充電コードへ無理な力が加わらないように、機器を設置してください。充電コードが損傷し感電・火災の原因となります。

4. 充電開始

充電を開始するとバッテリー充電ランプが赤色に点灯します。充電が完了に近づくると緑色に点灯します。

注意：充電中に異常発熱がある場合は、直ちに使用を中止し、新しい充電コードに交換してください。火災のおそれがあります。



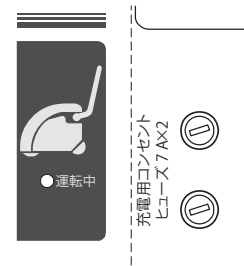
5. 充電終了

充電が完了するとバッテリー充電ランプが緑色の点滅に変わり、充電終了をお知らせします。緑ランプが点滅していることを確認してから、充電コードの電源プラグをコンセントからはずし、もう一方を本機充電口からはずします。

注意：充電が完了するまで充電コードをはずさないでください。途中で充電を終了することを繰り返すと、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。

参考：充電しても充電ランプが点灯しない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。ヒューズを点検してください。（メインスイッチは必ず「切」にして充電コードを抜いてください。）（『電気回路保護装置のリセット』33ページ参照）

充電ランプが点灯しない場合は、本体カバーを開けてヒューズを点検



注意：ヒューズ点検時はメインスイッチを必ず「切」にすること。

均等充電

⚠️お願い

- 過度の均等充電はおやめください。(月に1回を目安にしてください)
過度の均等充電はバッテリーに負担をかけ、かえって寿命を短くするおそれがあります。

バッテリーの充電状態を均一にし、寿命を延ばすために1ヶ月に1回程度均等充電をおこないます。均等充電は、通常の充電をした後にもう一度充電をおこないます。

1. 通常の充電をおこなう

通常の充電をおこない充電が終了したことを確認します。(充電方法 P 22～23 参照)

2. 均等充電を開始する

充電コードの電源プラグをコンセントから抜いた後、もう一度充電コードの電源プラグをコンセントに入れます。

3. 均等充電終了

ランプが緑に点滅して均等充電が終了していることを確認します。充電コードの電源プラグをコンセントからはずし、もう一方を本機充電口からはずします。

バッテリー液について

本機で使用するバッテリーは、メンテナンスフリー（補水不要）タイプですので、バッテリー液の補水は不要です。

注意：バッテリー上面の排気栓は絶対に取りはずさないでください。
バッテリーの性能や寿命を著しく低下させる原因となります。

保管時の充電について

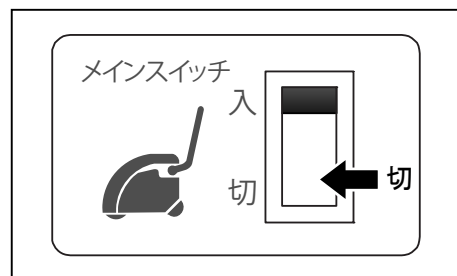
本機を長期間保管（1ヶ月以上使用しない）する場合は、バッテリーの性能を維持するため、3ヶ月に1回程度バッテリーの充電をおこなってください。充電をおこなわないと、バッテリーの性能や寿命が低下する原因となります。

バッテリーの交換

バッテリーを交換する際は、弊社支店・営業所に連絡の上、指定されたバッテリーに交換してください。指定されたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの性能や寿命を低下させる原因になります。

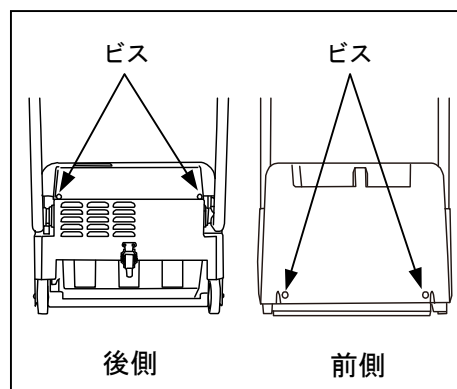
1. メインスイッチを『切』にする

メインスイッチを「切」にして運転を停止します。



2. 本体カバーを取りはずす

本体カバーを固定しているビス4本をドライバーで取りはずします。本体カバーをはずしてください。

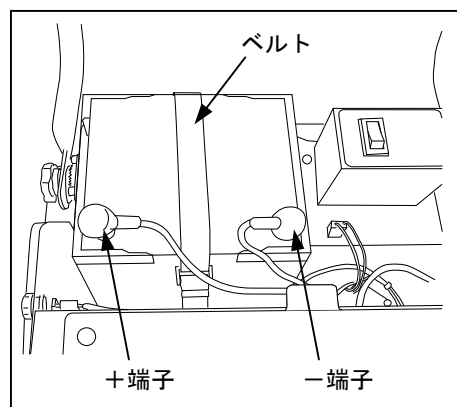


3. バッテリーを交換する

工具を使いバッテリー端子の配線を取りはずします。バッテリーを固定しているベルトをゆるめ、バッテリーを交換してください。

注意：

- ・必ず弊社指定のメンテナンスフリーバッテリーに交換してください。指定以外のバッテリーや補水が必要なバッテリーを使用すると、規定の充電ができなかったり、バッテリー液が漏れて腐食や故障の原因となります。
- ・バッテリー上面の排気栓は絶対に取りはずさないでください。バッテリーの性能や寿命を著しく低下させる原因となります。



4. 新しいバッテリーの配線を施す

バッテリーをバンドで確実に固定します。
工具を使いバッテリー端子に配線を施してください。
配線と端子の接続部分は、ゆるみがないように密着するまで工具で締め付けてください。ゆるみがあると、発火・発熱の原因となります。

5. 本体カバーを取り付ける

4本のビスで本体カバーを固定してください。

⚠重要

1. バッテリーの配置、配線は必ず図に示したようにおこなうこと。
ショート（短絡）による事故のおそれがあります。
2. バッテリー端子と配線は、必ず工具を使用して確実に締め付けること。
締め付けが弱いと、発熱・焼損のおそれがあります。
3. バッテリー端子にはターミナルカバーを取り付けること。
焼損事故につながるおそれがあります。
4. バッテリーの取扱いは、バッテリー本体の注意銘板の指示内容に従うこと。
守らない場合、思わぬ事故のおそれがあります。

⚠使用済みバッテリーに関する注意事項

1. 使用済のバッテリーは法令および条例に従って処理すること。
2. 使用済のバッテリーを一般ゴミとして扱わないこと。
3. 使用済のバッテリーを屋外放置したり、地中に埋めないこと。
4. 使用済のバッテリーを焼却しないこと。
5. 使用済のバッテリーの端子をショートさせないこと。
6. 使用済のバッテリーは子供の手に届かない場所に置くこと。

7. 保守

本機の保守をおこなう前に、以下の注意をお読みいただき理解してください。

⚠注意



注意

- ・点検やフィルター及び部品の交換の際は、保護具（手袋・保護メガネ・マスク）を使用のこと。

けがのおそれがあります。



運転禁止

- ・回転物注意

点検や修理でカバーを開けるときは、必ず運転を停止すること。

けがのおそれがあります。



停車・保管する

- ・平坦な場所に停車、保管すること。

思わぬ事故のおそれがあります。



電源を切る

- ・点検、メンテナンスをするときは、必ず電源を切ること。

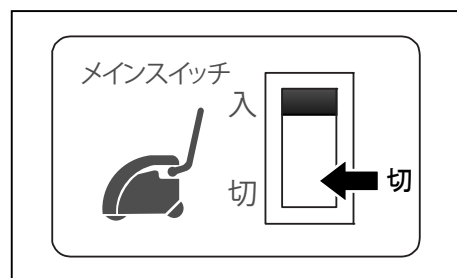
感電のおそれがあります。

ブラシの点検と交換

ブラシに絡みついたゴミ等の異物を取り除いてください。ブラシが摩耗している場合は、新しいブラシに交換してください。（ブラシの交換目安は28ページ参照）

1. メインスイッチを『切』にします。

安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認します。

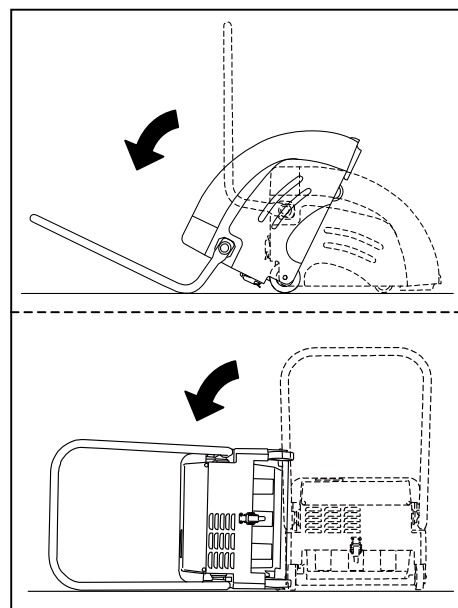


2. 本機を倒立または横転させる

『本機下部の点検と保守方法』9～10ページに従って、本機を倒立または横転します。

補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しアワーメーターにメッセージ「SLOP」を表示します。

メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。



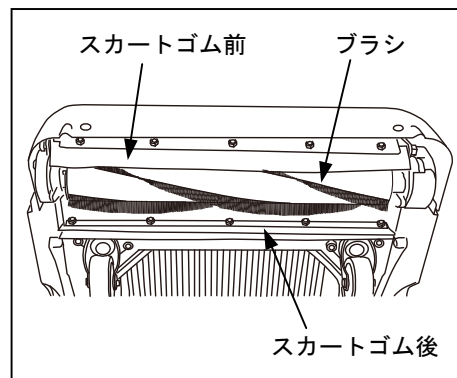
3. ブラシに絡みついた異物を取り除く

ブラシ部分に絡みついたひも等の異物を取り除いてください。

手順：

- ・ ブラシ交換は次項の手順に進みます。
- ・ ブラシの点検は以上です。ハンドルを押えながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。

注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。



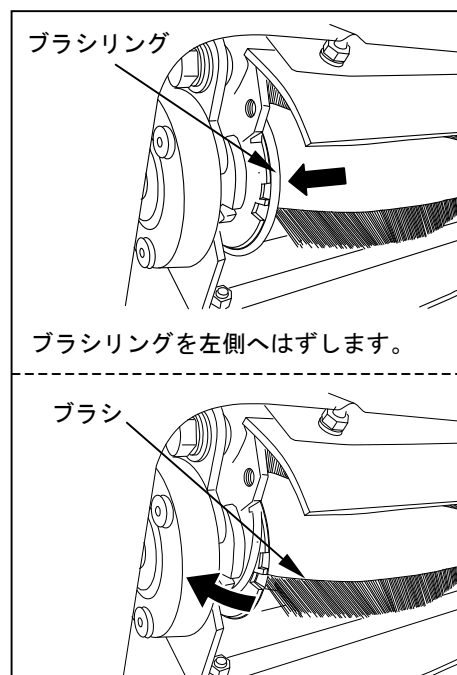
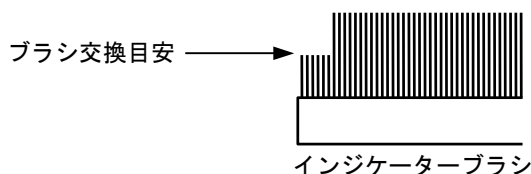
4. ブラシを取りはずす

ドライバーなどの工具を使いブラシを固定しているブラシリングを、ブラシホルダーからはずします。ブラシを左側にスライドし取りはずします。

5. ブラシを交換する

ブラシは、インジケーターブラシ1本とブラシ11本で形成されています。インジケーターブラシがブラシリング側になるように挿入します。

インジケーターブラシで使用限度目安が確認できます。



ブラシリングを左側へはずします。

6. ブラシの取り付け

取り付けは、取り外しの逆手順でおこなってください。

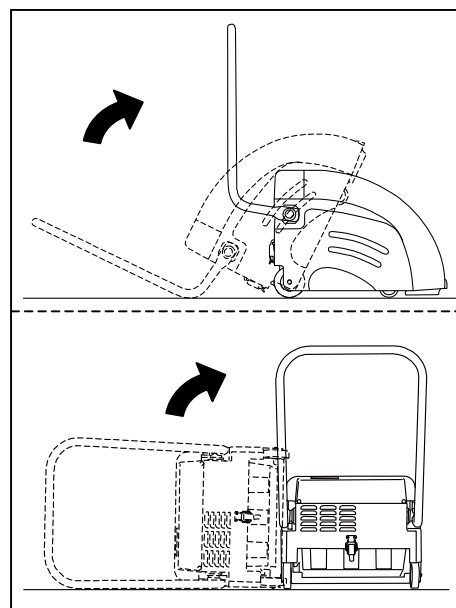
お願い：ブラシリングが、確実に取り付けられていることを確認してください。

4. 本体を水平にする

ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。（『本機下部の点検と保守方法』9～10ページ参照）

作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。（『ハンドルの調整』8ページ参照）

注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。

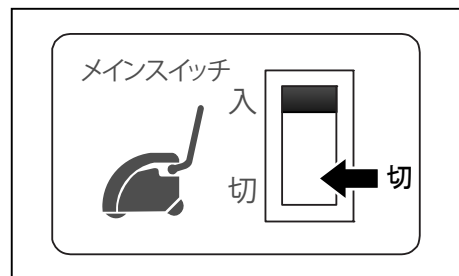


スカートゴムの交換

ブラシ交換と同時にスカートゴムを交換してください。スカートゴムを固定しているネジを取りはずしてください。新しいスカートゴムに交換してネジで固定してください。

1. メインスイッチを『切』にします。

安全のためメインスイッチが「切」になっていることを確認してください。

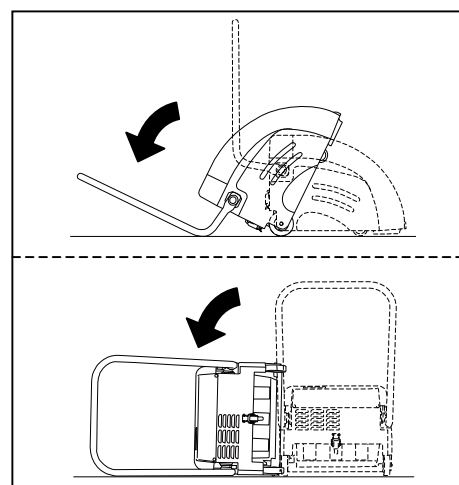


2. 本機を倒立または横転させる

『本機下部の点検と保守方法』9～10ページに従って、本機を倒立または横転します。

補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しアワーメーターにメッセージ「S L O P」を表示します。

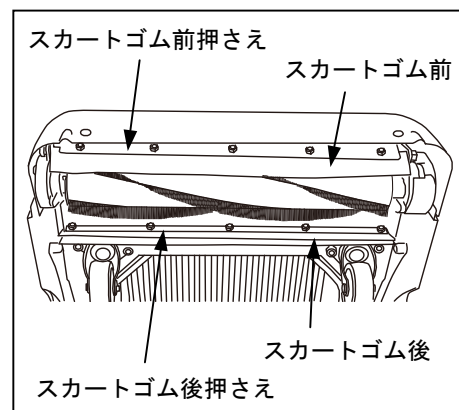
メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。



3. スカートゴム前・後の交換

スカートゴムを固定しているナットとボルトをはずし、スカートゴム前押さえとスカートゴム後押さえをはずします。新しいスカートゴムと交換します。

取り付けは、取り外しの逆の手順でおこないます。

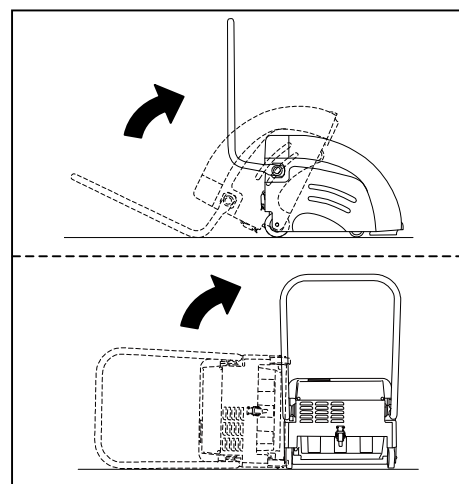


4. 本体を水平にする

ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。（『本機下部の点検と保守方法』9～10ページ参照）

作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。（『ハンドルの調整』8ページ参照）

注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さないでください。途中でハンドルを放すと、本機に強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。



フィルターの払い落とし

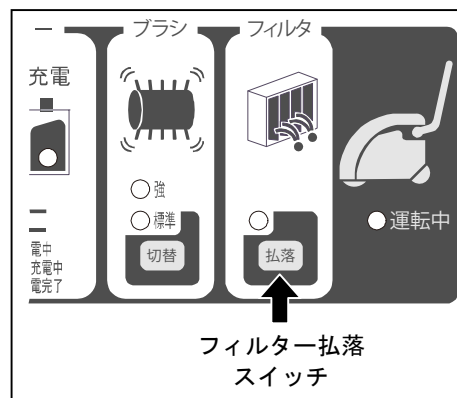
本機は累積運転20分経過したのちに、運転を停止すると、フィルター自動払い落とし（17ページ参照）を行います。また、「フィルター払落スイッチ」操作で臨時フィルター付着粉塵の払い落としができます。

●臨時払い落とし

運転中に「フィルター払落スイッチ」を5秒程度押してください。払い落とし、スイッチを押している間最長5秒おこなわれます。

ただし、運転停止後は、「フィルター払落スイッチ」による操作はできません。

お願い：必要以上にスイッチを押し続けしないでください。長く押しても5秒以上は作動しません。



フィルターの点検と交換

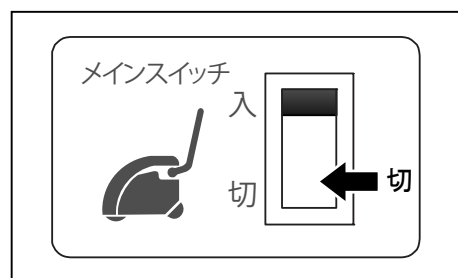
⚠️お願い

- 安全のため保護具（手袋・保護メガネ・マスク）を使用してください。

フィルターが破損した場合、または極端な汚れで目詰まりした場合は新品と交換してください。

1. メインスイッチを『切』にする

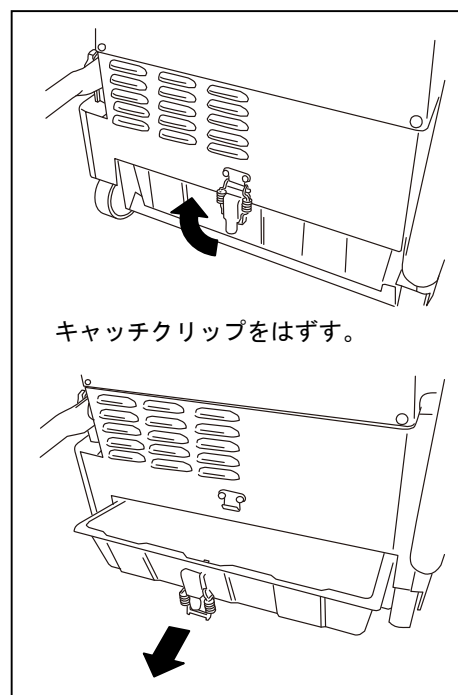
メインスイッチを「切」にして運転を停止します。



2. ダストバケットを取りはずす

ダストバケットを固定しているキャッチクリップをはずして、バケットを引き出します。ダストバケットに溜まったゴミは排出します。（『ダストバケットのゴミ排出方法』18ページ参照）

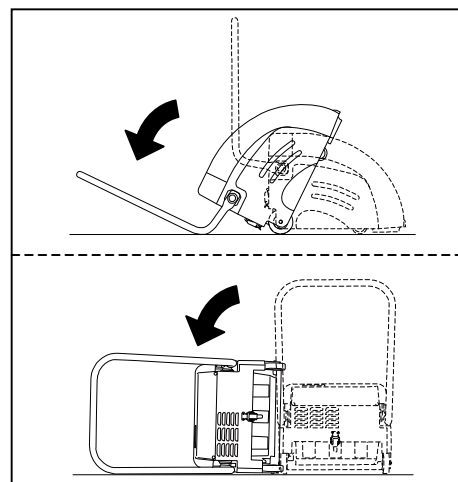
お願い：排出したゴミは、貴社規定および関連法規に従って適切に処理してください。



3. 本機を倒立または横転させる

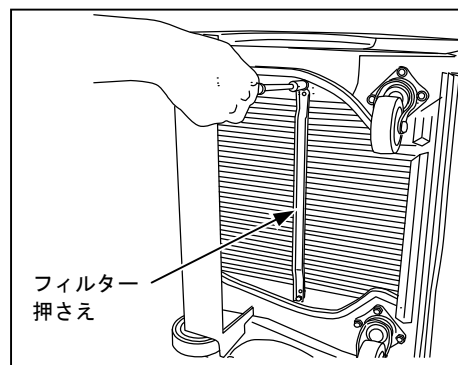
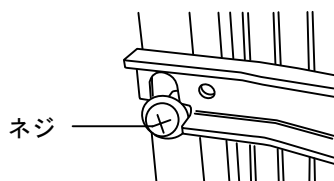
『本機下部の点検と保守方法』9～10ページに従って、本機を倒立または横転します。

補足：メインスイッチが「入」で本機を傾けた場合は、運転を強制停止しアワーメーターにメッセージ「SLOP」を表示します。メインスイッチを「切」にし、本機を水平に戻して、再度メインスイッチを「入」にすると解除されます。



4. フィルター押さえをはずす

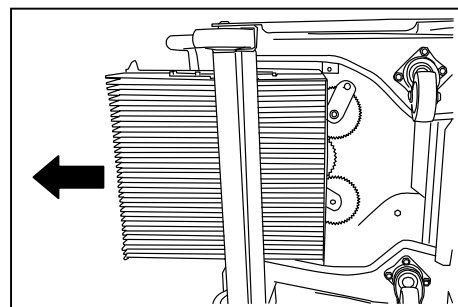
フィルター押さえを固定しているネジ2本をゆるめ、取りはずします。



5. 成形フィルターを本体から取り出す

本機を倒立して交換作業をしている場合は、本体を水平にします。(『本機下部の点検と保守方法』9～10ページ参照)

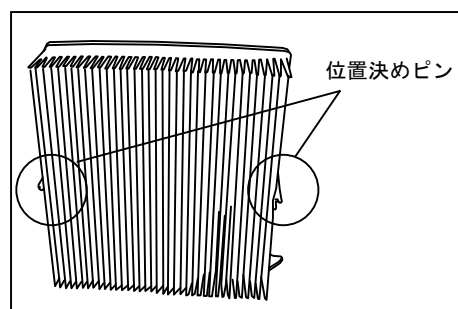
成形フィルターをダストバケット口から取り出します。



6. 成形フィルターを交換する

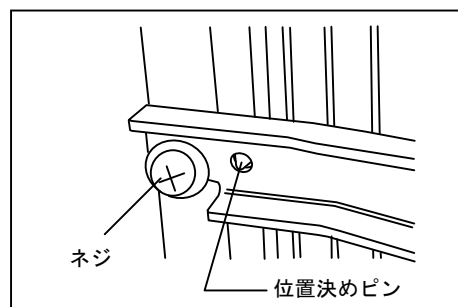
新しいフィルターは、パッキン面を本体側にして取り付けます。取り付けは、取り外しの逆の手順でおこないます。

ご注意：フィルターは水洗いできません。水洗いをする
とフィルターろ布が変形し、目詰まりや取
り付け不良による粉塵漏れの原因となります。



7. 新しい成形フィルターを取りつける

本機を倒立して交換作業をする場合は、『本機下部の点検と保守方法』9～10ページに従って、本機を倒立します。フィルター押さえの小穴にフィルターの位置決めピンを合わせて、2本のネジで固定します。フィルター押さえが密着するまでネジを締め込んでください。

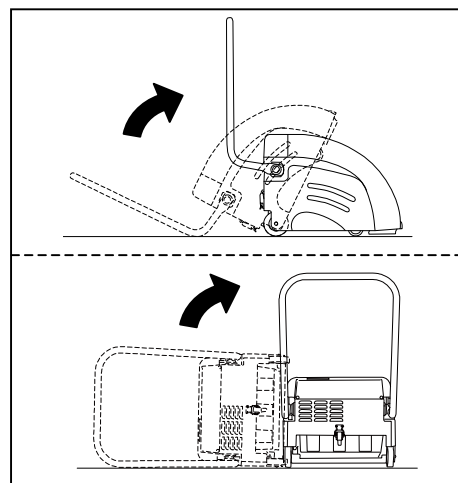


8. 本体を水平にする

ハンドルを押さえながらゆっくり持ち上げて、本体を水平にしてください。(『本機下部の点検と保守方法』9～10ページ参照)

作業者の操作しやすい高さに、ハンドルを調整します。
(『ハンドルの調整』8ページ参照)

注意：キャスターが床に着くまでは、ハンドルを放さない
てください。途中でハンドルを放すと、本機に
強い衝撃が加わり破損する恐れがあります。

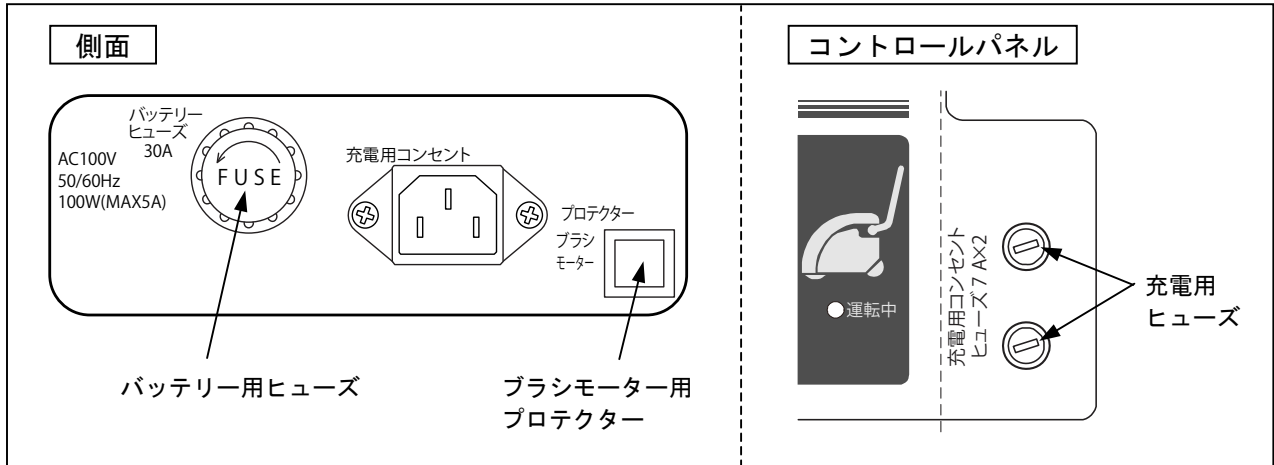


9. ダストバケットを戻す

ダストバケットを元に戻してください。奥まで押し込み、キャッチクリップで固定します。

電気回路保護装置のリセット

電気回路保護装置は、各部を過電流や過負荷から保護します。電気回路保護装置が作動（電流を遮断）したときは、以下の方法でリセットまたは交換してください。



電気回路保護装置が作動した場合は、メインスイッチを「切」にして、保護装置が作動した過負荷や過電流の原因を取り除いてから、指定されたヒューズの交換・プロテクター復帰をおこなってください。

ブラシモーター用プロテクターのリセット方法

1. メインスイッチを『切』にする

メインスイッチを「切」にして運転を停止します。

2. リセットする

過負荷や過電流の原因を取り除き、5分程度経過してからプロテクターを押し込みます。

●復帰できないときは、そのままの状態の数分待ち、再びリセットしてください。

●復帰しても再運転にて再びプロテクターが作動（電流の遮断）する場合は、弊社支店・営業所までご連絡ください。

充電用・バッテリー用ヒューズの交換方法

1. メインスイッチを『切』にする

メインスイッチを「切」にして運転を停止します。
充電コードの電源プラグも、コンセントからはずしてください。

2. 本体カバーを開ける（充電用ヒューズのみ）

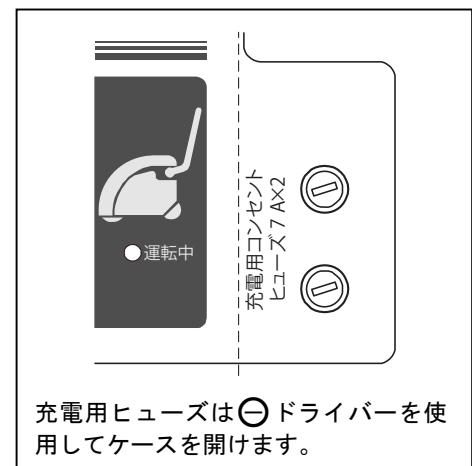
本体カバーを固定しているビス4本をドライバーで緩めます。本体カバーを取りはずします。

3. ヒューズを交換する

ヒューズケースを開けて、新しいヒューズに交換します。

ヒューズは規定容量以外の物を使用しないでください。

- ・充電用 …………… 7A (φ5. 2×20L 250V)
- ・バッテリー用…………… 30A



8. トラブルシューティング

トラブルが生じたとき、修理を依頼される前に下記の点検・対策をしてください。

異常	原因	対策方法
メインスイッチを入れても作動しない	① バッテリーの放電 ② 充電中 ③ バッテリー用ヒューズが切れている ④ 機械異常のため安全機能が作動した(点検ランプ点滅) ⑤ 傾斜センサーが作動している	① バッテリーを充電または交換してください ② 充電終了までお待ちください ③ ヒューズを交換してください ④ P 16 参照 ⑤ ブラシの点検などで本体を傾斜させているときは水平に戻してください。
ブラシが回転しない	① 回転部に異物が挟まっている ② メインスイッチを「入」にしていない ③ ブラシ用モーターの過負荷によりサーキットプロテクターが作動した ④ ベルトが切れている	① 異物を取り除いてください ② メインスイッチを「入」にしてください ③ 過負荷の原因を取り除き、時間(5分程度)を置いてサーキットプロテクターを押し込んでください(P 33) ④ ベルト交換を弊社に依頼してください
ゴミを回収しない	① ブラシが消耗している ② ブラシリフト用ヒューズが切れた ③ ファン用ヒューズが切れた ④ フィルターの目詰まり ⑤ バケットスカートゴム不良	① ブラシを交換する ② ヒューズを交換する ③ ヒューズを交換する ④ ダストバケットおよび成形フィルターの点検(P 18・P 31参照) ⑤ バケットスカートゴムを交換してください
充電できない	① 充電コードが抜けている ② 充電用ヒューズが切れた ③ バッテリーの劣化 ④ 点検ランプが点滅しアワーメーターに「t E n P」と表示された	① 充電コードを接続する ② ヒューズを交換する ③ バッテリーを新品に交換 ④ 冷却ファンを点検してください このとき充電はおこなっています

※運転中や運転開始時に、動作が停止して点検ランプが点滅したときは、P 16を参照してください。

9. 定期点検表

点検の際は、メインスイッチを「切」にしておこなってください。

点検項目	点検時期の間隔		点検内容と対策
	毎日	毎月	
ブラシ		○	摩耗(厚さ)・破損・取付状態の確認 摩耗したり破損しているときは交換
スカートゴム	○		磨耗・破損・取付状態の確認 摩耗したり破損しているときは交換
ダストバケット	○		堆積したゴミを捨ててください
成形フィルター		○	損傷の有無を確認 損傷したりフィルターが目詰まりしたら交換してください
電気系統	充電コード	○	被覆・プラグの破損有無を確認 破損している場合は交換
	均等充電		○

※消耗品は定期的に交換してください。(消耗品は下記をご覧ください)

10. 部品表

消耗品

品名	部番	数量	備考
成形フィルター部組	HDF-4004	1	
ブラシセット	HDH-9001	1	補修用(12本セット)
スカートゴム前	HDH-1070	1	
スカートゴム後	HDH-1075	2	
バッテリー	HDH-9303	1	60Ah/20時間率
キャスター	HDH-1063	2	
車輪	HDH-1060	2	
充電用プラグ付コード	HFD-8804	1	

ヒューズ類

品名	部番	数量	容量	備考
サーキットプロテクター	ESW-011706	1	15A	ブラシモーター用
ヒューズ	EFS-260003	2	7A	充電器用
ヒューズ	EFS-290001	1	30A	バッテリー用

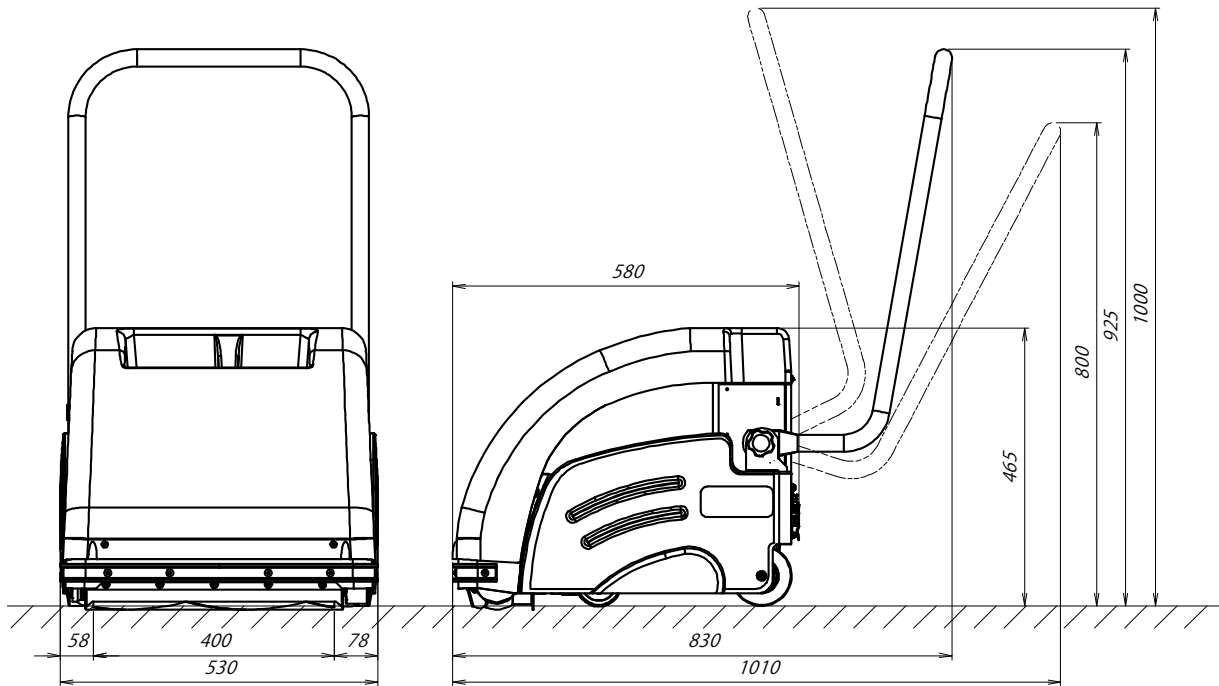
11. 仕様表

項目		RCS-400
寸法	全長	1010mm (ハンドル除く580mm)
	全幅	530mm
	全高	1000mm (ハンドル除く465mm)
質量		55kg (バッテリー搭載時)
清掃能力		1200m ² /h (3km/h走行時)
清掃幅		400mm
歩行方式		手動歩行式
モーター電圧		DC12V
バッテリー		メンテナンスフリーバッテリー DC12V/60Ah×1個
充電器		内蔵 入力: AC100V 50/60Hz (MAX5A) 出力: DC12V 7A
稼働時間		満充電時 約4時間 (※1)
充電時間		約11~15時間 (※2)
使用環境温度		0℃~40℃

※1: カーペットの条件や使用状況により異なります。また、稼働時間はバッテリーの劣化により徐々に減少し、温度が下がると短くなります。

※2: 充電時間は、バッテリーの放電状態、劣化状態、周囲温度によって変化します。

1 2. 外觀圖



单位：mm

13. アフターサービスと保証

■ 使用中異常が生じたとき

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みのうえで点検していただき、回復しない場合は、ご自分で修理なされなくて、弊社支店・営業所にご相談ください。

■ 保証について

- ・この製品は保証書付きです。
- ・保証期間はご購入の日から1年間です。なお、保証期間中でも有料修理になることもありますので保証書をよくお読みください。
- ・消耗部品は、保証期間中でも保証対象外とし、有料とさせていただきます。
- ・保証期間経過後の修理については、弊社支店・営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様の希望により有料修理いたします。
- ・不明な点は弊社支店・営業所にお問い合わせください。
- ・本製品は、日本国内での取引並びに使用を前提とし、海外で使用する場合は保証等に関する責任は負いかねます。

■ 部品の保有期間について

清掃機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後、6年です。

(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。)

性能を維持し、長く安全にご使用いただくために、交換部品は純正部品をご使用ください。

14. 製品の廃棄について

本機を廃棄するときは、関連する法令および条例に従って適切に処分してください。

保証書

機種	RCS-400	機械番号	
保証期間	年	月	日より1年間
貴社名			
所在地	〒		
TEL	()	-	
ご担当部課	ご担当者		様
販売店名			
TEL	販売担当者名		

本証書の記載機械は厳密な品質管理および検査に合格し出荷されたものであることを証明し、下記条件に従い保証いたします。

- 保証期間中（お買上げ日より1年間）に、正常な使用状態において、万一故障した場合には当社にて無料で修理させていただきます。
修理は、弊社各支店・営業所にご依頼ください。
※本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- つぎのような場合には保証期間中でも有料修理となります。
(イ) 使用上の誤りあるいは取扱上の不注意による故障・破損又は改造による故障及び損傷。
(ロ) 火災・地震その他天災地変による故障および損傷。
(ハ) 一度取付けた後の移動・輸送・落下等により生じた故障および損傷。
(ニ) 本保証書の記入項目欄に記入のないときおよび取扱店の記入のない場合あるいは字句を勝手に訂正された場合は無効となります。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
Effective only in Japan



業務製品事業部 〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-13
TEL (03) 3543-2281

